

2022 年 7 月 2 日

日本大学理事長 林真理子様

日本大学学生会プロジェクト

<https://www.nichidai-student-union.org/>

https://twitter.com/NU_SU_Project

日本大学各学部における、学生会・学生自治会設立の要望

突然のご連絡大変失礼いたします。

この度は、理事長へのご就任、誠におめでとうございます。

私たちは、日本大学学生会プロジェクトと申します。コロナ禍を機に、2020 年度より日本大学の各学部学生会/学生自治会を設立することを目的として活動を始めました。

現在は、学生 FD や学園祭実行委員会など、複数学部の公認団体と連携しているほか、日大事件に関連して、日大新聞にも取材していただきました。

私たち学生会プロジェクトは、一連の事件で発覚した日本大学の問題とその再生策について、理事長ならびに理事会の皆さまに要望したい事項があり、ご連絡を差し上げております。

日本大学各学部に、学生会や学生自治会などの学生自治組織設立を進めてください。

学生からの申し入れがあれば受け入れ、無ければ学生に対して学生自治組織の設立を呼びかけてください。それでも学生に動きが無ければ、各学部の公認団体に自治組織設立の準備を指示してください。

そして、学生大会/総会の決議を経た議案は、学部生の総意として受け入れ、学部運営に活かしてください。

大学の主役が学生である以上、学生の声と力無しに、日大全体の状況は改善できません。その中で必要になるのが、学生会/学生自治会です。学生によって選出され、大学の管理組織から独立した立場で意見を発信できる、学生会/学生自治会の設立こそは、「自主創造」そのものであり、日大問題の最大の解決策だと考えます。

日本大学の再生において、大学が学生の声を聞く姿勢を大切することはとても重要です。学内外に本学の再生を具体的に示すためにも、大学が学生の声を聞く仕組みを自ら作り上げることは必要と考えます。

これまで学生は、学期ごとに実施される授業アンケートでしか意見を主張できず、またそれに対するフィードバックすら無かったことは、多様な意見を尊重する現代において、明らかに異常なことです。学生に対して「多様性を尊重し、少数の声を聞くことが大切である」と説くのであれば、大学自身がそれを実行することは、当然であると言えます。

「出る杭は打たれる」。私たち学生会プロジェクトは、そのような社会を肯定し、未来に残そうとする姿勢からは、いかなる成長も生まれないと考えます。また、大学が学生を見守り、さらに学生も大学を見守る。この構造こそが、学生生活をより良いものに成長させ、大学の価値を高めさせる、直接的な手段であると考えます

学生自治組織の設立は、直接的には、大学のガバナンスの問題解決にはつながらないかもしれませんが、しかし、日本大学全体をうっすらと、しかし満遍なく空気のように支配している、抑圧的な「風土」、「大学の体質」の根源には、学生の声を見做するという姿勢がありました。この学生に向き合わない姿勢こそが、特定の人たちによる専横的な体制を生み出してしまったと言えます。

加藤先生は「体制変革」と「抜本的な改善施策」を約束されました。また昨年末、教員の代表は、大学改革に必要な策として学生自治会の設立を提案してくださいました。世間の目も、日本大学の対応に集まっています。各学部における学生会/学生自治会結成のための動きが、日本大学が変化しているという具体的な姿になると思います。

新執行部成立直後の今が、日大の反省と再生を印象付けることのできる、最も効果的なタイミングだと思います。事件以降に大学改革を訴えられた多くの先生が新役員として選出され、態勢については「本気で取り組むのだな」と感じました。

また、学生は今月後半には夏休みに入ってしまうと思います。夏休みを周知と準備期間に充て、後期から各学部での活動を始められるよう、速やかなご対応をお願いいたします。

今年度の頭に、前理事会に対して同じ内容の要望を行い、その際は加藤先生のご指示を受けられた、本部学生部学生課・福島様にご対応いただきました。今回も、同じように話し合いを進めていただけたらと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

■学生会/学生自治会の結成促進について

・学内掲示板や学部ポータルで、全学部生が確認できるような告知をお願いします。

私たちも、ホームページや Twitter で協力を募ります。人が多ければ多いほど、一人一人に求められる働きは小さなもので済みます。

・公認団体への呼びかけについて。

学生 FD、文化部連盟のようなサークル統括団体、学園祭実行委員会。これら公認団体は、学科を跨いで学部全体のために動いた、実績と経験があると思います。次いでサークル、ゼミ、実習クラスなど。以上の順で、担い手に相応しいと考えます。

指名は、学生自治の原則から外れてしまいましたが、日大改革と事件解決が優先と考えます。これも、前述の公認団体が、指名されるに相応しいと考えます。

これら公認団体には、昨年度後半に、学生会/学生自治会という考えについて、私たちからお伝え済みです。

松戸歯学部、歯学部には学生会があり、医学部では翠心会が学生会の役割を担っていると伺っております。各学部での組織設立に際しては、これら3学部の皆様にご協力いただければ幸いです。

また、全ての学部の近隣の大学では、学生自治会や学友会が活動されていますので、運営や選挙のやり方などについて、大学間を越えてお教えいただく、監査として加わっていただくことも有効ではないかと思います。

学生会組織として、以下のようなものを想定します。

・学部生全員参加（委任状含む）の学生総会/大会を最高機関とし、年1〜2回の開催で、決議事項を学生の総意として、実現に向けて大学と交渉していく。

・選挙で選ばれた執行部/事務局。事務局は学生総会/大会の企画運営等にあたる。委員長以外のどの役員までを選挙で選ぶかは未定。

・事務局と、学科、サークル団体、ゼミなどの代表で構成された中間会議。学生大会よりも頻繁に開催し、もっと細かな対応に当たる。

・選挙管理委員会と監査。

役員選出に関しては、教職員の不当な介入の無いようにお願いいたします。

多くの学生が参加しつつも硬直してしまわない、組織や会則が固まるまで、3年くらいの試行錯誤が必要かと思います。

全学規模の組織について…まずは学部が優先ではないかと考えます。学部ごとに、学生の抱える問題や、活動状況が異なるからです。また、今回の事件を生んだ、中央集権を避けた

いという思いもあります。「日本大学学生自治会連合会」「学生会連合会」のような名称で、各学部学生会による会議と、あくまで補助するだけの事務局、という構成を提案します。

Q.なぜ「学部長への意見箱」「学生の意見箱」では不十分なのか？

A.提起された問題が学生間で共有されず、解決策も学生自身で考え、学生の賛成によって決定したものではないからです。

また、「一部学生の意見にすぎない、総意ではない」と却下されないためでもあります。

何か大きな問題が起きる度に、一から改善運動を起こしていくのは大変な労力がかかります。提起を受け入れ、解決するための恒常的なシステムを用意しておくことが必要だと考えます。

大学発案の企画に「参加させてもらう」だけ、以上のものを目指さなければと思います。

前々理事長の支持母体となった校友会（出身理事は、逮捕後も理事長を擁護しました）は、私たち現役生も、学費と同時徴収という形で校友会費を納めており、校友会の収入のほとんどが、現役生の払った会費となっています。私たちのお金が、結果として事件に繋がってしまったことを、非常に残念に思います。

商学部には体育団体連合会はあるけど、学術文化団体連合会は消滅？したままです（学生自身が声を上げることが必要ですが…）。工学部校友会は、体育会長、北桜祭委員長、応援団長には校友会賞を出しますが、学術文化サークル連合会は無視し続けてきました（昨年度は、応援団にしか授与しなくなりました）。これらも、日大の体育会偏重といえると思います。

また、コロナ禍初年度に、国際関係学部生の仲間が学費減免を求めるオンライン署名を募りましたが、法学部生から「賛成するのは危険だ」という声上がり、途中から署名数が伸び悩むということがありました（署名は大学本部に提出しました）。事件後の体質改善を求める動きに対しても、危機管理学部のサークルが異を唱えたことがありました。学生の側からであっても学生を抑え込もうとする、これも日大の「風土」です。